絵画史特講	講義	選択必修	2単位

科目類：専門　　開設時期：2年前期

担当教員	天貝 義教
履修上の注意	『巨匠に教わる絵画の見かた』を教科書に使用する。
授業概要	イタリアルネサンス，北方ルネサンス，バロック，ロマン主義，写実主義，ロココ，新古典主義，印象主義，新印象主義，後期印象主義，象徴主義，世紀末芸術，ドイツ表現主義，２０世紀美術の絵画を取上げて考察する。
授業のねらい	本講義では，主として，遠近法が成立したルネサンス時代の絵画（painting）から，二十世紀までのヨーロッパならびにアメリカ合衆国の絵画について，その歴史的変遷を中心に，美術としての意義を考察してゆく。
評価方法	レポート作成
学生へのメッセージ	指定した教科書以外に，西洋ならびに日本の絵画についての参考図書（授業において紹介する）を十分に活用すること。また，博物館，美術館等で，実際の絵画作品に触れる機会を多くもつこと。

東洋工芸史	講議	必修	2単位
科目類：専門	開設時期：1年前期		

担当教員	井上 豪
履修上の注意	授業は一回完結を基本とする。欠席した分は補充がきかないので注意すること。
授業概要	日本工芸美術の出発点というべき正倉院宝物をとりあげ，源流である中国・唐時代の作例と，そこから徐々に独自の展開を遂げていった日本の作例を対比する。初期に受容・吸収された外来文化とはいかなるものだったのか，それらは後に日本の中でいかに展開していったのか，幅広い視野で観察していきたい。
授業のねらい	古代文化の源流とその消化過程について考察する。形式の進化や制作技術の発達，作品の用途，そこに込められた意図など，様々な角度から日本の工芸美術の歴史的成り立ちを概観する。
評価方法	定期試験に平常点（出席および授業参加態度）を加味して最終評価をする。
学生へのメッセージ	日常的な生活用具を見て「なぜこの形なのか」と考えることがあります。あらゆる形状には文化的な必然性があり，それぞれ多様な美的表現の可能性が潜んでいます。形の持つ様々な意味について，常に考える姿勢を持ちたいものです。

西洋美術史	講義	必修	２単位
科目類：専門	開設時期：１年前期		

担当教員	天貝 義教
履修上の注意	『<美術>』を越えて』を教科書として使用する。
授業概要	西洋の美術（建築，彫刻，絵画）について，古代ギリシア・ローマ，ビザンチン，ロマネスク，ゴシック，ルネサンス，バロック，１９世紀の歴史主義と機能主義，２０世紀の表現主義とリアリズム等の時代様式とその意義を概観する。
授業のねらい	ローマ帝国，キリスト教，ゲルマン的要素から成立するヨーロッパの美術の歴史的変遷と各時代の特徴的な様式についての理解を深めることを目指す。
評価方法	筆記試験による
学生へのメッセージ	西洋の美術作品については，日本国内で直接触れられるものは一部の絵画作品と彫刻作品に限られる。それ以外には，複製画像ならびに文献を通じて触れることとなるので，図書館等の図書を十分に活用することが望まれる。

比較文化論	講議	選択必修	2単位

科目類：教養基礎　　開設時期：2年前期

担当教員	井上 豪
履修上の注意	授業は一回完結を基本とする。欠席した分は補充がきかないので注意すること。
授業概要	シルクロードの美術を中心に，各地の美術表現から様々な文化背景を読み解いていく。モチーフ別に仏教美術の作例を取り上げ，各地域における理解の違いが図像表現に与えた変化から，異文化交流について考えていきたい。必要に応じて美術に限らず，言語・風俗・文学などのテーマも取り上げていく。
授業のねらい	図像の持つ象徴的な意味性というものに目を向ける。色や形のイメージが文化の違いによっていかに異なる意味を持つか，「自分の常識」を相対化し客観視する視点につなげたい。
評価方法	定期試験に平常点（出席および授業参加態度）を加味して最終評価をする。
学生へのメッセージ	形を通して人に何かを伝えること。これは非常に難しいことです。自分の描いたイメージは正確に理解されるのか，自分は人の作品を正しく理解しているのか。古代人の工夫と誤解が生み出した美術の歴史から，図像表現の限界と可能性について考えましょう。

美学	講義	選択	２単位
科目類：専門	開設時期：１年前期		

担当教員	天貝 義教
履修上の注意	『国際デザイン史』を教科書に使用する。
授業概要	本講義では，以下のテーマ取上げてゆく。「美術」という日本語の意味，ウィーン万国博覧会，工部美術学校，『工芸志料』，古代ギリシアのテクネーの概念，ファインアートの概念，カントの『判断力批判』，黄金比，ロマン主義の美の概念等。
授業のねらい	本講義では，前半では主として，西洋の「美術」概念について明治維新以降の動向を手がかりにしながら考察し，後半では，西洋の美の概念について古代ギリシアから１９世紀後半までの主要な議論を紹介し，その今日的意義を考察する。
評価方法	筆記試験による
学生への メッセージ	指定した教科書以外に，授業において紹介する参考図書を活用して，美術ならびに美の概念についての理解を深めるよう努力することを期待する。

材料学	講議	必修	2単位
科目類：専門	開設時期：1年前期		

担当教員	松本・平野・島屋・小牟禮・竹田・安藤・熊谷・長沢
履修上の注意	
授業概要	工芸作品，製品を制作するには，造形の意図に最も適した材料（素材）の選択が必須の条件となる。そのため本講義では本学に設置されている工芸の各分野で従来から活用されてきた材料（素材）や近年の開発素材等について，その種類・特性・用途などを，オムニバス形式で解説する。
授業のねらい	個々の学生が進もうとする分野以外の工芸材料についても理解することで，自分の扱う素材との比較によりその特性をより理解し，素材を十分に活かした作品制作に繋がることをねらいとする。
評価方法	レポート課題および出席状況
学生への メッセージ	